6/22 朝日

子を見守り働ける場

「シェア・アトリエ」草加に25日誕生

子どもを見守りながら働ける場「シェア・アトリエ　つなぐば」が25日、草加市八幡町にオープンする。築30年のアパートを再活用、内装や外壁は関係者らが手作りで仕上げた。間近には地域の人々の憩いの場となっている大きな公園があり、カフェやオフィスが地域に開かれた場でありたいとメッセージを送る。

3本の木をバックに集う、つなぐば家守舎の面々＝草加市八幡町の八幡西公園

入居女性と地域の交流も期待

運営する株式会社「つなぐば家守舎」の代表取締役、小嶋直さん(37)によると、「つなぐば」のコンセプトはこうだ。クリエーターが集まり、よいモノが生まれる環境は「仕事につながる」。共に子どもを見守りながら女性が生き生きと働ける場として「母親とつながる」。世代、性別を超えて交流が生まれる場として「地域とつながる」の三本柱。

プランが生まれた時からの創業メンバーである松村美乃里さん(38)、小林永美子さん(37)は、どちらも子どもを育てながら働く母親だ。「シェアアトリエを作ろう」と動き始めたのは2016年11月。仕事と子育てを両立させようとする場としてのコンセプトイメージは膨らんでいったが、物件探しに時間がかかった。

現在の八幡町の物件に行き着いたのは17年6月。東武スカイツリーライン新田駅から1・5キロで住宅街の真ん中にある。場所の利便性よりも多様な人とのつながりを得られるスペースの潜在力が重要と判断、この物件に決めた。最大の決め手は、建物の目の前にある公園、市営の八幡西公園だった。約2600平方メートルと広く、地域の人たちにとって憩いのスペースだ。あらゆる年代の人たちが集い、歩き、遊ぶ。一隅には特徴がある形の木「カイヅカイブキ」が3本並ぶ。その景色は、「つなぐば家守舎」のロゴマークにそっくりだ。「何か運命めいたものを感じた」と小嶋さん。

モノをつくって人とつながるための場所だが、入居者として想定しているのは主にプロになる前の女性たち。入居しやすいように家賃などのハードルはできるだけ低くした。松村さんは結婚後にフリーランスになったデザイナー。そのうえで現在子ども園に通う3歳の子と一緒にいる時間を削りたくないので、「シェア保育もできれば」と思っている。小林さんも「子どもにおかえりと言えるような環境で働きたい」と話す。

入居募集も順調で、シェアオフィスとして利用する人、お店を開く人、日替わりランチを提供する人らが入居する。

「地域の人もどんどん出入りするおもしろい場所になりますよ」と小嶋さんは話している。

問い合わせは、草加市産業振興課（048・922・0839）へ。（春山陽一）

西武、減少打開へ28市町と協定

全般に運動離れの傾向がある②ナイター中継が減るなどして野球を知るきっかけ

げ方や打ち方、ミニゲームなどを指導する。

多くの公園が「野球禁

県高校野球100回のあゆみ回顧

川口・大宮・川越　写真や新聞記事展示

第100回全国高校野球選手権記念南・北埼玉大会が7月7日に開幕するのを前に、県勢の甲子園初出場からの写真や朝日新聞紙面をポスターで紹介する「県高校野球100回のあゆみ展」（県高野連、朝日新聞さいたま総局・埼玉販売センター主催）が21日、そごう大宮店、川越市の丸

そごう川口店で始まった「県高校野球100回のあゆみ展」

場で始まっ

そごう川

には、午前

い物客らが

出身という

子さん(60)

園に197

から2年連

在校生。ポ

ら「かち割

M&K

ひざ・腰

越谷の

ブロッ